

1. 評価結果概要表

作成日平成21年10月20日

【評価実施概要】

事業所番号	3770101255
法人名	株式会社ケアサービスかがわ
事業所名	グループホームきらら
所在地	香川県高松市香西南町37-2 (電話)087-832-8335

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成21年8月27日	評価決定日	平成21年10月20日

【情報提供票より】(21年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)12年 9月 13日		
ユニット数	3ユニット	利用定員数計	27人
職員数	19人	常勤	14人, 非常勤 5人, 常勤換算 16.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 4階建ての2階～4階部分
------	----------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000～48,000円	その他の経費(月額)	13,000円+実費	
敷金	有(60,000～96,000円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500円			

(4) 利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	27名	男性	5名	女性	22名
要介護1	6名	要介護2	4名		
要介護3	6名	要介護4	5名		
要介護5	6名	要支援2	0名		
年齢	平均 83歳	最低	53歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	やまもと医院 大塚歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームきららは既存の施設を改修し、2～4階部分を使って3ユニットがあり、「家族愛」を理念に地域の中で家族が安心、利用者が自由に、ゆとりを持って普通の生活ができるように、施設長を中心に職員が丸となって取り組んでいる姿勢が感じられる。職員は家庭的雰囲気を大切にしている。「家よりここがいい、みんな優しく、いい人ばかり」と入居者の言葉が笑顔と、落ち着いた態度に現れている。外出がしにくい立地条件から、買い物、散歩など努めて取り入れ、又遠出、外食も計画し対応している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善点、同業者との交流、災害対策については職員の意識の中に常にあると思われるので、実現に向けて具体化し前向きに取り組まれる事を期待したい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>各ユニット毎に検討され、3ユニットが報告しあい改善点についての共通項目が見出されている。自己評価を通して今後の改善点に気づきがあり、これをサービスの質の向上につなげて欲しい。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2カ月に1回開催されおり、現況報告が主となっている。今後メンバーについて更なる検討をし、家族代表、地区の民生委員、ボランティア等に拡大し、活発な意見交換と取り組みを期待したい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族には毎月現況報告がされている。「きらら便り」を作成し写真入りで行事の様子、今後の予定など盛り込まれたものも送られている。家族が来訪時は現状を報告し、家族の意向も十分聞くようにしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣とのかかわりを大切にしており、近くのスーパーで買い物、散歩などの折りに挨拶、声かけなど交流に心がけている。地域の行事やホームでの行事にも参加交流が積極的にされている。今後災害時の協力体制について理解を深めていけるような取り組みを期待したい。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	社訓「家族愛」をもとに入居者に対して家族を思う愛情を持ちながら接している。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「家族愛」(普通の生活)を管理者・職員は日々の業務の中で実践に向けて努力している。散歩、買い物など地域の人との触れ合いの機会を多くし、普通に暮らせるように努めている。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の入居者には敬老会の案内が届き出席している。自治会にも加入しており、祭りのときは獅子舞が来、又市民運動会に参加するなど地域の行事に積極的に参加、地域の人との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各ユニット毎に全員(参加可能な人)で自己評価についてまとめ、3ユニットそれぞれ報告しあって確認されている。この話し合いを通じて今後の改善点への気づきの機会となっている。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月毎に開催されているが、出席者、会議内容によると報告事項が多いと思われる。	○	運営推進会議のメンバーについて、家族、地域の民生委員、ボランティアの参加など検討し、意義ある会議となるように取り組む事を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>現在、市との関わりは運営推進会議への出席、書類関係が主なものである。</p>	○	<p>今後地元の市出張所やコミュニティセンター等身近な所とのかかわりにより、地域の行事の情報、ボランティアとの交流など積極的に取り組み、更に市とのかかわりについても近況報告、相談事項など関係を密に持てるような取り組みを期待したい。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月1回家族に現状報告、「きらら便り」に写真入りで行事の様子、今後の予定など分かり易く、カラフルなものが作られ送られている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>不満・意見など常時家族と話し合い、今まで特に大きな問題は出されていない。家族とコミュニケーションをとり、気軽に言ってもらえる関係作りに努めている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の定着率はよく、馴染みの関係が保たれている。理念「家族愛」が実践されていると思われる。ユニット間の異動はたまにある。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修計画に基づき、実践者研修はほとんどの職員が受講している。その他の研修についてはパンフレットによる案内を見て、個人的にも受講している。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者との交流は行われていない。</p>	○	<p>今後事業所のサービス向上のため、他事業所との交流を通じケア面での工夫、レクリエーションの在り方など学びたいと言う職員の意向もあるので前向きに検討されたい。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入院先から入居する方が多いが、可能な限り本人、家族が事前に見学に来て雰囲気を知ってもらって入居するようにしている。居室については家族の協力を得て馴染みのものを置くようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩に教えてもらうという対応をしている。3階のベランダでプランターにトマト、ナスの栽培をし、収穫できたものを「自分たちで作ったものは美味しいと食べることが出来た。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の情報から夜型の人には朝食を遅くするなど、その人の生活全般にわたって対応している。映画の好きな人、動物好き等番組の選択も本人の希望に添えるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の意向本人の希望など日常生活の中で引き出すように気をつけ介護計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3カ月に1回の見直しは勿論のこと、入居者の状況変化にその都度対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の要望に出来るだけ応えている。行きつけの美容院、歯科医院、通院など要望に沿えるように努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を大切に、かかりつけ医で継続受診がされるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族と話し合い、医師と連携し対応している。入院する方が多いので、今までホームでの看取りの例はない。今後に備えて職員が共通の理解を持つよう取り組んで欲しい。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人に関すること(表情が暗い、何かあったのか)については、プライバシーを尊重し居室でゆっくり聞くようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズム、したい事を知り、その人のペースで過ごせるよう取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ゆっくりとマイペースで食べている。そして残さず完食の人が多く。「食事は楽しい、ここの食事は美味しい」と入居者。職員は見守りながら支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は特に決めていない。毎日希望に出来るだけ応じ対応している。朝風呂も対応、特に規制はしていない。特浴のみ日を決めて実施している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	皆で出来る事をとりいれ、洗濯物は自分の物をたたんでもらっている。おやつのおしぼりをやめ各自手を洗っている。個別に出来ることのある人には食器を下げるなど取り組みがされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	立地条件から外へ出にくい問題がある。週1回は買い物、ドライブ、散歩など出る機会を多く持つ努力がされている、また、外食が計画され実施されている。入居者も楽しみにしている。	○	時折行事としての外出は出来ているが、日常的な外出支援とはなっていない。気分転換やストレス発散の機会として、短時間でも入居者のその日の意向にそった外出支援が望まれる。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアの重要性について職員は十分認識しているが、ホームの玄関前がすぐ幹線道路で交通量が多く危険なため、止むを得ず施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	今年は避難実地訓練をしていないので、消防署と連携をとり専門家の指導を受けて、安心して生活出来る様にする事が望まれる。	○	消防署の協力を得て実地に避難経路、方法等の指導を受け、職員が不安なく、自信を持って対応できるように取り組んで欲しい。更に避難後の見守りなど地域住民の協力を得る事も大切と考えられるので、運営推進会議などでの協議を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量については常に観察し対応している。こぼしながらも時間をかけてマイペースで食べている事に職員は見守りながら自立に向けて支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	臭い、汚れなど気になることもなく、寛げる空間である。入居者の作品も展示されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は個別性が尊重され、個々に過ごし易い環境が作られている。		